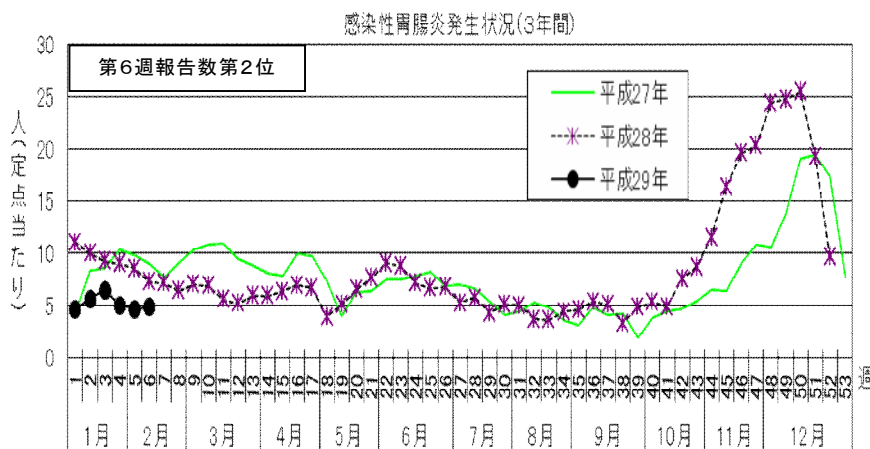
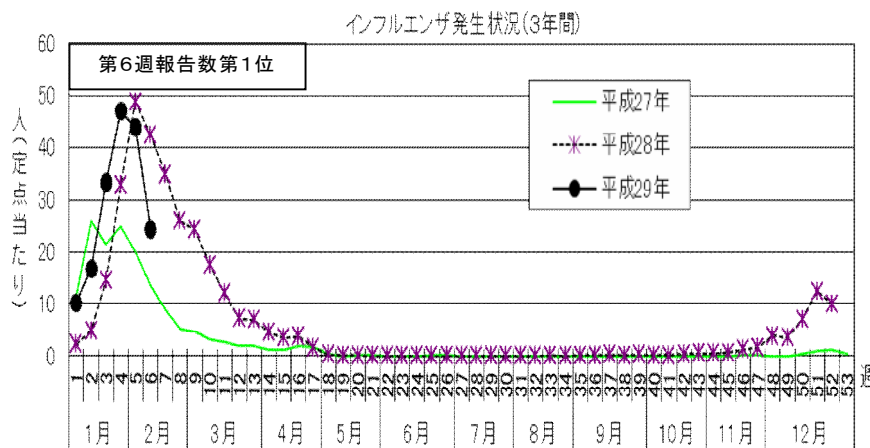


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成29年2月6日（月）～平成29年2月12日（日）〔平成29年第6週〕の感染症発生状況

第6週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は24.37人と前週（43.92人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.83人と前週（4.67人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.75人と前週（2.11人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



知っていますか？～侵襲性肺炎球菌感染症～

肺炎球菌は、肺炎の原因菌として最も多い細菌です。髄膜炎や敗血症を引き起こすこともあり、髄液又は血液などから菌が検出されたものを侵襲性肺炎球菌感染症といいます。

小児では2013年4月に肺炎球菌ワクチンが定期接種化され、以降は届出数が減ってきていますが、成人では、特に高齢者のワクチン未接種者を中心に届出数は増えています。

侵襲性肺炎球菌感染症とは？

感染経路

患者の咳やくしゃみなどによる飛沫感染
※感染したとしても必ず発症するわけではありません。

初期症状

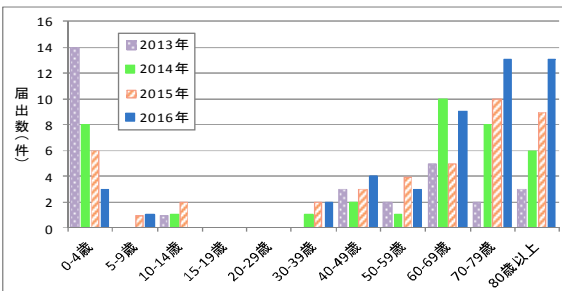
小児:発熱を初期症状とした菌血症（無菌であるはずの血流中に細菌が存在する状態）が多く、肺炎を伴わないこともあります。
成人:発熱、咳、息切れなどを初期症状とした菌血症を伴う肺炎が多くみられます。

治療

抗菌薬が有効
※近年、耐性菌も多く報告されています。



川崎市における侵襲性肺炎球菌感染症の年齢階級別発生状況



予防にはワクチン接種が有効で、小児と成人に対して以下のワクチンが定期接種化されています。

〔沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン〕（小児用）

〔23価肺炎球菌英膜ポリサッカライドワクチン〕（成人用）

※対象年齢の詳細は、川崎市のホームページをご覧ください。